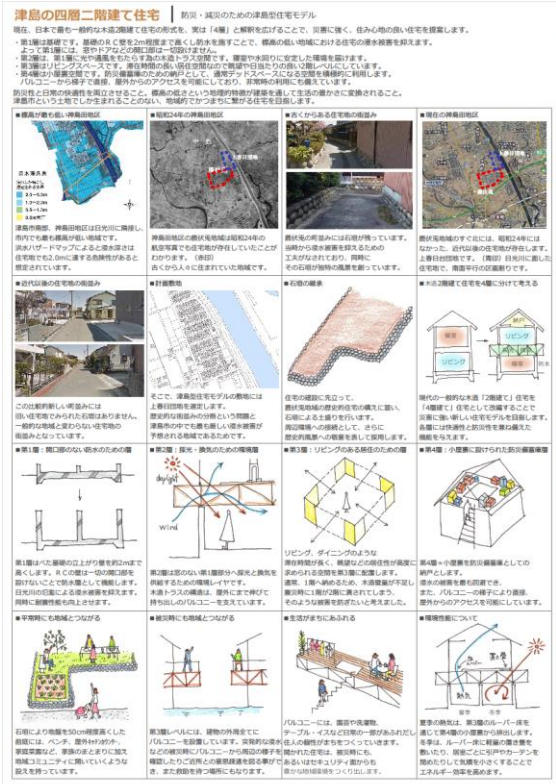
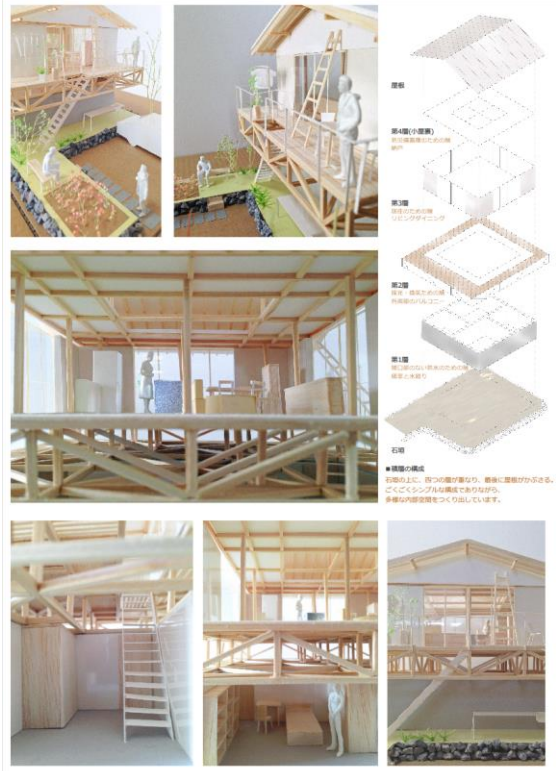
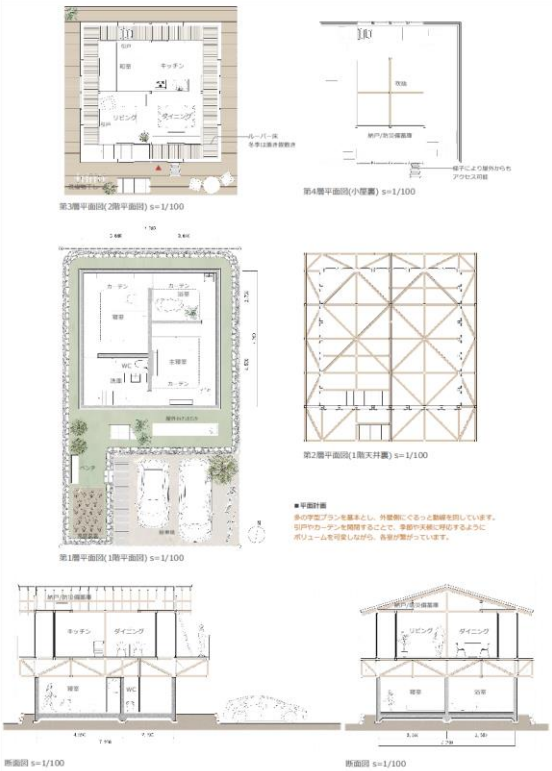
優秀賞

津島の四層二階建て住宅







日本で最も一般的な木造「2 階建て住宅」の形式を、「4 層 2 階建て住宅」と解釈を広げ改編することで、災害に強く、住み心地の良い住宅を提案します。防災性と日常の快適性を両立させること。
標高の低さという地理的特徴が建築を通して生活の豊かさに変換されること。津島市という土地でしか生まれることのない、地域的でかつまちに繋がる住宅を目指します。（市川大輔）

【審査委員講評】

難波和彦審査委員長

グリッド状に計画された比較的新しい住宅地に、既存の町並との連続性を保ちながら提案された戸建住宅である。洪水による床上浸水に備えて１階に RC 壁構造で守られた寝室と水回りを置き、２階に開放的なコモンスペースを置いている。２階床の構造体を背の高い木造立体トラスとして構造強度を高めるとともに、採光と通風のゾーンとして使用し、さらに２階の天井裏を備蓄倉庫として利用している。２階建てでありながら、機能的には４層の構成とした、極めて現実性のある戸建住宅の提案である。

朝岡市郎審査委員

提案募集の内容からすると、ともすると、防災・減災に重点がおかれがちであるが、この提案は四層の災害時に対応し快適な日常の生活も暮らせる作品である。模型による検証がされ意匠性にもすぐれた提案であることが高く評価された作品である。

生田京子審査委員

本作品は、津島市の浸水被害を想定した住宅として、ユニークなモデルを示しているように思います。地盤部には津島市内に伝統的に見られる石積みによるかさ上げを採用し、1 階は RC の止水層とし、その上に風や光を取り入れる軽やかな木造フレームを載せていく形態は、既存の風景に馴染みつつも、浸水高さの水面を意識化させる独創的な表情を持っています。

川崎浩司審査委員

一戸建て二階木造住宅を四層の空間に置き換えるとともに、地域間のコミュニケーションが取りやすい住宅構造と街並みを取り入れたところに独創性がみられる。地盤の嵩上げには、津島市古来の石垣による工法を導入し、浸水対策にも資する住宅となっている。

清水裕之審査委員

戸建ての防災・減災ハウスの設計として、斬新なアイデアを入れつつも、とても素直で、かつ、具体的な提案が好感を持てた。特にバルコニーで近所とのコミュニケーションを図ろうとする手立てなどはシンプルだが面白い。ただ、1 階と２階の間に挿入されたフレームが通常の通風、採光以外に、緊急時にどのような役割を担うのか、分かりにくく、また、

屋根裏部屋をもう少し拡充してもよかったのではないか？

日比一昭審査委員

津島市の戸建て住宅の多くは木造であり、その基本パターンをモデルにして、木造２階建てを４層と解釈し、災害に強い住宅を提案された着眼点はすばらしい。階層ごとに機能が明確であり、２層部分の木造トラスによるバルコニーや１層部分のＲＣ基礎（立ち上がり２ｍ）への採光、通風といった住環境への対策が興味深く、地元の大工さんでも実現可能なモデルになると思う。さらに、高齢者への配慮や１層部分の閉鎖性への配慮、間取りの斬新さ、周辺環境への対応をもう少し踏み込むとよかった。